



一絃琴家元。歌人。宇摩郡上野村(現、四国中央市)出身。千足神社神官の長男。神官時代は相模守家教と称した。天保元(1830)年、画家で一絃琴奏者であった杉隅南が千足神社を訪れたとき、短期間であったが隅南から直接、一絃琴の指導を受けた。弘化3(1846)年より九州や中国、伊勢などの各地を巡りながら一絃琴の演奏方法や作詞、作曲を学び、弘化4(1847)年、京都に移り住んだ。豊平は、現在も残る一絃琴の曲を多く収録した譜本『須磨枝折』を著し、正親町中納言家より一絃琴総取締役を命じられ、家元師範役となった。

その後も豊平は、権力者のみならず一般の人々にも一絃琴や和歌を教え、明治維新後は全国各地を巡って指導した。そのため豊平には約1,800人の門人がいたと言われている。

略歴

文化6(1809)年 9月10日	宇摩郡上野村の千足神社の神官・真鍋信濃守家賢の長男として生まれる。
天保元(1830)年	杉隅南から一絃琴の指導を受ける。
天保2(1831)年	文通により京の正親町中納言家に師事
弘化4(1847)年	京に移り住む。
嘉永元(1848)年 4月	譜本『須磨枝折』を著す。 正親町中納言家より、一絃琴総取締役を命じられ、家元師範役となる。
嘉永6(1853)年	大坂(現、大阪府)に移り、一絃琴と歌道の教授を行う。
明治11(1878)年 2月	歌集『水穂舎詠草』刊行
明治12(1879)年10月	歌集『水穂舎長歌詠草』刊行
明治15(1882)年	高知へ赴き一絃琴の教授を行う。
明治26(1893)年	家元を弟子に譲る。
明治32(1899)年 4月12日	91歳で永眠。墓所は大阪市天王寺区下寺町の遊行寺 また、四国中央市土居町の真鍋家墓地にも分骨

(写真提供：真鍋惺士郎氏)

〈関連図書〉

- ・土居町教育委員会『土居町誌』 土居町役場 1984年
- ・須磨琴保存会『須磨琴』 須磨寺 1986年
- ・大西善明・一叡『一絃琴つれづれ』 大西一叡 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・福田安典『驚きのえひめ古典史-愛媛文学小鑑〈その1〉』 創風社 2000年

〈主な収蔵資料〉…(P212, 80)

〈ゆかりのある場所〉…(P292, 115)

〈関連施設〉…暁雨館

〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町入野178番地1 TEL: 0896-28-6325